



1278
18

朝東巡嶋記全傳第四編卷之三

東都 曲亭主人編輯

中輯第三十五

浮雲の富貴草
濡衣乃弟古鳥

却說文字搨へ。外うごく。時夏小説動され。心頻々安らぬべ。
遽しけ小浴廬をかく。ちのが局へ退ぐ。うち顰て眉帯小おどる。頬を
塗ぐも化粧一果て結髪へ入ふ。任へ鏡臺小對へ影とこれ二人後常
入梳頭の婢兒の智恵も此彼と三人合ひ文珠髷聚も融す。後常
毛の何う怯え後髪際も運熟せ。櫛の歯ふかしらひのありとも
誰か黄楊の長柄櫛解ても釋ぬ謎こへ。且まく釣毛欵片心浮鬱
の落者ぬ。腰小湛く。髪水も浅く汲み。虚言软實更ありせばその

仇人をひで知らんとかほくふろひより櫛笥の益の。あけてりまきぬ身乃
吉凶の凶祥みあぶよざうて衞りあと髪袴の神めあら移べぬシテ
ちく羽立アモあ死身と今さうふ悟らきぬ世ふりまでアモ在しアモ忍アモ鮮衣の
よをひシテえうシテ飾整アモ時を程アモ程アモ文字搗アモ胸の苦勞と黒髮を既アモ
結アモ果アモう。う。疑アモ釋アモう。且アモ枕アモう。う。裳アモ衣と
被アモう。臥アモう。居アモう。只アモ時夏アモりれアモ成アモう。按アモう。
寢上の川アモ使アモ鶴アモ已アモ腹を肥アモえアモく。人の爲不アモ貼アモをアモ捉アモ喙アモあ
傷アモ生アモひそと被アモう何曾アモへアモわくアモ更アモのちろ成アモ推アモう。小鶴鳴アモ
これ鶴東アモ二アモえんアモ點アモハ吾脩アモをりかまアモ。渠アモハ去歲アモの春雷月。吾脩アモお
公アモをアモ。降人時夏アモ下アモ立アモ。公アモそなう。その程アモもアモ召返アモされ。後意アモ
その人アモ逢アモうちアモ。殿アモ小経アモ仕アモ諭アモ。文字搗アモを追退アモけ。刀野太

郎アモ小賜アモひアモと卒余アモすまうせアモ。殿アモはつやく聽アモ。う。ご渠又アモ匡姫アモを
かく。吾脩アモ小代アモ人アモとアモつアモど。それね今アモ小更アモゆく。これアモ鶴東アモ二アモ。
吾脩アモを憎アモひとアモう。人の竊アモふ告アモ。渠アモ御アモ氣色アモど
蒙アモ。閉籠アモをアモをアモ。讀書アモを進アモ。殿アモの軍アモを外アモ。奥
やうその明アモ一アモ丈アモ。下アモう。やうにとアモ。渠アモ御アモ氣色アモ。と。あ。之アモそ
遊興アモ。耽アモ。故アモ少アモや。あんがく。然アモう。と。その言アモを用アモい
ら。ま。ね。が。い。く。吾脩アモを憎アモひ。増アモか。う。然アモう。の。く。も。當アモら。が
う。う。小。仇。人。へ。鶴。東。二。あ。其。を。い。ち。を。や。禦。び。吾脩アモへ。達。小。渠。う。う。小。
害。ま。ぐ。る。や。う。あ。こ。房。小。て。の。彼。浴。室。郎。へ。吝。み。や。と。く。殿。を。ま。せ。い。情。あ。う。ど。く。吾脩アモを。恨。み。め。く。ん。と。の。い。ふ。り。う。を。ま。び。コ。づ。是。を。猶。モ
誠。を。盡。ま。く。ん。再。び。物。残。按。ど。ふ。刀。野。へ。敗。軍。の。咎。下。り。今。難。兵。追。

降らまし。その耻をも雪よんとく。吾脩ふ舊怨を棄て。厄を告仇と告
言の報ひ不孰成と憑んとの所為あらば。あらんより今更ふいに清
きんとあんそへとやれかもあき。トゞや人より告られども彼鶴東二
飽やす。吾脩を憎しとつゝへ吾脩も豫くよし知り。せんとくさん。
と胸ふくらぬの白波立騒ぐ。心ひとう鎮めても有數の女子の智恵の
海深き伎俩を浅ちう小解得一謎も枉津日の神とえ竟小知り。す
け。折しもあまに皺うる少女二人やぐ邊へ走りあつ。文字搦の方を
まほ。殿の召せりかふあん誘多。とのぞせ。文字搦身と起し。聊
勞はとあまく。其を養んとす。程ふ平日より時の後れと。さうとも
待せあひける。むん理りふゆるか。まこと桂衣脱更衣。童女ふがまつてう
る。並厝する廊下屢裳揭く先小立。金蓮の歩。唯鶯乃浮宿の

床を離まつて。件の少女共侶小後廳へ赴けば経任へけむちや舞妓歌
娼夥集令く酒宴既小酣え。されば郢曲煩みの艷をと合奏の撥を
揚。石積の飛泉鼓々と。巖を撲と凝き垂袖歌舞乃焼
え。仙幅の扇を翻せ。江天の雪霏。風小紊と怪る。況く
美酒珍饌の衆。肴。肉を丘と。酒錢池と。彼鹿臺の象牙
の箸。又朝歌牛飲の觴。具足。どとりひととあまび。筑紫の磐井水
富。ざふも尚屑とせど。伊豫の純友が驕まる。りまご飽むと。おふう
べ。既ふ是花脣柳腰。百の媚。お淫女ホモ。後まく。おぬ。文字搦
主の邊ふるよ及びく。花のくろも。深山樹。あらで。あらび。優すと
誰。うりのん。僉色。あらが如く。あまび。徑仕い。興ふへく。右小この戀交妾を
挾み。左小琥珀の盃を廻し。こまに傾け。又浮うき。強飲乱醉時残

程もく。文字搗（ひき）て腰（こし）枕（まくら）ふと（と）。醉臥（さけむく）。當下文字搗（ひき）へ婢兒（女房）们（わらわ）。密語（ひそかごと）皆（みな）そのちろがゆる。或（ある）へ臥（おぶ）る。主の裙（はかま）ふ衣（いぬ）被（は）或（ある）ももかく。盃盤（はいせん）を運び納（な）る程（ほど）。日暮（ひぐれ）夏（なつ）のち（ごろ）先（さき）あがく。もや黃昏（こうふん）かうり（くわらび）。更（さら）小間（まど）每（まい）許（ゆき）多（た）。燈臺（とうだい）小火（こひ）を點（とも）。幾枚（いくまい）とねる長廊（ながろう）。兩戸緑（りょく）扇（あん）すゞぎ。物（もの）く整（せい）て後（あと）僕文字搗（ひき）暇（ひま）を告ぐ。各（ごく）局（きょく）へ退廻（たいめぐら）。既（既に）小月（こづき）初更（はじごろ）の比経（ひきょう）任（あた）へ醉醒（ざいけい）。と又（また）びりの程（ほど）より。これへ熟睡（じゆすい）。既（既に）小月（こづき）初更（はじごろ）の比経（ひきょう）任（あた）へ醉醒（ざいけい）。と又（また）びりの程（ほど）より。これへ熟

くらん。どうきりと面色（おもていろ）。訝（あは）く名ひ。かをと身と起（おこ）と片頬（かたほほ）と拭（ぬぐ）ひ嚮（むか）。大醉（おおさけ）。汝（な）が膝（ひざ）を枕（まくら）せ。を知（し）。さうと堪（たま）がかり。ほん小身（みこみ）を動さ。覺（おぼ）る。今ふとめぬ實情（じじょう）。あは。あは。も。きやうろぬがれ。今一滴の花の露（しづ）。と。面を撲隨（ぼくずい）。小驚（こきよ）。覺え。汝（な）が涙（なみ）。と。泣沈（なみこ）む。声高（こゑたか）。まことに嘯（うなが）の諸羽濡（ぬれ）。明（あきら）。地（ぢ）。小告（ごう）す。と。泣沈（なみこ）む。お成（なま）る。余ふりひがれ。と。やへゆ。濡（ぬれ）せ。汝（な）が涙（なみ）。と。泣沈（なみこ）む。お成（なま）る。余ふりひがれ。と。やへゆ。色（いろ）き。外（ほか）見（み）。怪（あや）き。まよ。苦（くる）。悔（くや）か。苟且（ごくわい）。ぬえ。情（じょう）。と。稟（うなが）。と。花（はな）。やぐ。お。あ。ま。人の嫉妬（しつと）。も。大き。あ。ま。ど。寵（わらわ）を争（あらわ）。ひ。辛成（あしこな）。義（ぎ）。も。女子（じよし）。ど。ち。然（ぜん）。も。あ。ま。ん。を。妾（わらわ）。小。異形（いぎけい）。仇人（ごうじん）。を。づ。と。告。つ。を。經。任。安。あ。つ。ど。汝。が。仇。へ。何。人。そ。為。小。口。延。そ。の。仇。を。殺。え。ん。と。く。告。よ。こ。い。不。可。六。後。方。を。見。え。り。声。を。細。う。一。と。う。問。せ。り。の。う。今。へ。匿。む。べ。く。も。待。う。ま。妾。が。仇。へ。殿。の。軍。師。蘇。塗。鶴。東。二。暴。道。へ。渠。り。う。ま。不。软。妾。を。憎。ま。く。歳。ひ。老。く。時。夏。小。妾。を。賜。へ。と。そ。の。一。を。り。或。へ。筐。姫。を。薦。ま。る。を。せ。せ。と。欲。へ。又。頃。日。へ。

渠咎あらまくうち龍すく居み。諫書を獻。刺殿の奥すく。かん遊樂小耽。王あり。みか文字掲げ。所為る。人あまぞ亡ふく。御遊興の根を断。忠臣小あもどか。と。賢がちく。あめびく。ふ刃を磨き。隙を窺ふ。と。正しく人の告げ。浅やか。限を。限を。ひひみ。うえ人の怨と禦ん。と。難。渠へ智惠人小勝。計。計。よ長。うかのあま。アモ。軍師。す。せらま。けめ。姿を。終。計らまく。命を。其。如。ふ。隕。ま。お。お。側。小。せり。と。今宵限。小あもどと。有。敷。小。多。定め。が。ま。お。名残。え。惜。され。く。哀。い。白月。小塞。不。嘗。ふ。涙。を。落。て。が。面。と。汚。せ。缺。あ。ま。れ。越度。と。少。小。せ。ん。許。そ。せ。ま。と。時。夏。が。か。け。ろ。謎。を。う。解。し。言葉。巧。ふ。と。廻。を。これ。や。鮮語。の花。の。兩。散。ま。る。如。歎。え。ま。り。經。任。あ。き。成。竹。く。墮。ふ。く。死。又。死。頭。と。傾。け。尋。思。ま。と。久。く。呵。く。と。うち。笑。い。文字。掲。そ。え。み。か。志。ひ。ま。ん。

あく小決めざす。渠ホグト人まぐらふとうひもや更闌。わたく寝ん談。
とむうすふを成携る。軀く臥房小へ入ふ。かくそひ詔呈。神井鬼
六猛虎鐵旨矢藤五重連珍浦五十五六方相距大吠又陰行ホ
連署。經任を諫る。某ホ頃日ハ間諜者をり。敵の虚実と
揆窺。光仲が陣中。時疫。元まろの甚。且その兵
糧えく。進退難義。不及。便は天の祐る所。とく
龍衣駿びれり。あくども。君公後堂小のままで故小士卒。ちづ
き。小台。戦ふのあらう。を。正廳。ゆ。軍議の憲。めと
多く。幸ひ甚て。もんと。書。う。経任。これを。已。と。伏。る。と。軍
議の席。小先と。時文字。掲。を。召。近。つけ。是。云。云。の。義。ゆ。う。て。か
敵を。龍衣。と。欲。と。然。ば。この序。と。く。鬼六ホと密譚し。汝が仇の真偽。戎

探らん。か。ま。だ。あ。小。早。暮。く。姑く樂。を。俱。み。志。す。さ。び。心。と。放。く。
口。が。敵。小。克。日。を。俟。必。か。の。底。あり。ひ。そ。と。叮。寧。小。慰。と。文。字。掲。渙
さ。ぐ。ま。く。堂。と。廳。と。かり。と。ど。も。か。ふ。ド。脚。館。の。内。あ。ま。ぐ。刃。心。と。ぬ。べ。と
あ。が。す。あ。へ。快。樂。の。喜。見。城。彼。处。も。生。死。不。定。の。場。牡。鹿。の。角。乃
つ。ま。束。の。間。も。ち。ん。側。小。浴。侍。う。ざ。ま。が。此。日。を。り。ふ。く。消。え。ん。とい。い
み。く。左。右。袖。小。額。と。ひ。當。ま。ぐ。經。任。へ。立。か。ぬ。が。鬼。六。ホ。よ。ち。が。く
請。き。く。脣。う。や。よ。か。小。う。さ。序。程。小。時。夏。へ。嚮。ふ。文。字。掲。を。謀。ん。と。
外。う。ぐ。警。せ。そ。の。折。ふ。り。ふ。や。彼。九。尾。の。狛。奴。が。遽。く。浴。一。果。く。
脣。安。う。ぬ。故。う。べ。渠。は。素。う。そ。の。性。怜。憐。を。や。こ。意。と。釋。さ。う
ん。や。釋。ば。か。あ。ま。ぞ。修。羅。殿。ふ。鶴。東。二。が。る。成。い。ん。然。ら。ば。こ。謀。行。之。ぐ。
と。含。咲。く。又。そ。の。次。の。日。を。う。よ。此。朝。も。文。字。掲。ハ。第。一。番。小。浴。一。童。

女六ヶ声高く淨湯を呼ぶ程か時夏へ応と答ふと湯を溢るまゝ汲み見る覓を文字掲見えり。

篝火の盡れ苦え鶴の繩も最上の川小うけとてど。と再三とば

口遊ミさうぬさまふく浴廬を出たり。時夏へ風雅小疎う。歌をよく

知るやうねども今文字掲が詠じる二十一字を攷るよ。ふうけ

ううう謎を。う鶴東二がゆのと解ぬしよ。城外うご。それふ知

を。歌うりえ。ううんよ。速め事を行ひ。そつうしめ。彼暴道へ

智あらかじ。這奴小うきとあうが禍還りく。お不及ん。やまとき。

かや行ふべれ。その便を俟や。ふ經任へ軍議よ請れ。内房や

在す。ぞうり。婢兒们へ名ひみう。且く暇あう。お小ちう。この故よ。

けく五人。えぐ。うちう立く浴隨。時夏が火焚の後。平日少く。モ

牡丹園。ゆぞあはけ。この花あまび文字掲が愛々とで来る。とある。とある。

とある。み拭。とある。面を裏。足を偷れ。項を伸し。遙か内房のこゑ

足ふい。と静。とある。音もせ。時へ下晡。小志。夕陽。小色を。す。なる。

紅あ。白あり。薄あり。濃あり。名も。を。よ。付。牌。よ。公。と。が。折

あ。と。ね。が。顕。と。く。ス。う。隠。と。見。う。牡丹。小狂。蝶。の。花。を。う。ち。達。ま。が

と。心。も。脣。も。あ。ち。著。ぎ。渠。り。あ。と。ま。ぐ。と。來。金。へ。今宵。臥。戸。小。潜

い。便。も。が。か。と。葉。と。恋。あ。と。ぬ。怨。の。寝。刃。眉。小。合。と。寛。ひ。う。か。が

折。う。文。字。掲。ハ。稀。う。非。番。よ。う。寂。く。夏。の。日。消。一。慰。め。う。移。く。む。う。

漫小端居成をとゞ。馥郁とうと牡丹花の風のやうく薰かわす。あらはと與人ともと爲ふ。人ひとふそとむひのきをあらう。あらんまさん香をえうりと。年少一いびさく老の一日も非情ひやうとひふと。廿日とどの盛さかりへ限ゆきあり。夕の雨あめふ衰おちぬ間ま。一枝折ちぎく床ゆ。あらん誘いざなとく庭下駄はきう不さう。翳羽かげと扇せんとうち披ひく。花の不とうふ近ちかづ。
程ほどふ後あとれて一人後あとひ來くる。童女わらわを抱いだてよせ殊ことう頬ほのうなまなまが花をもみ。鉄てつをりござざ。欲ほそをあくへいふく。散ちるさで花はなを折ちらう。死しとくゆく來く。よ。とひそがせぶ童女わらわへもろぬ。果たまてそが俊と踵きを旋まわし。局きょくを投なげて走はしとけ。文字じぶん揭かかへりつまだ。て小立在たまへくをあうね。花はな小引ひく。花はなごろ。九折くしき。身みを輾ひしせば裳蹴はかまうく。下鰐裂さかわきの白綾しらね。帶たすきの端はえ黒髮くろがみ。鮮あらはて素すすく大叫だきょう。喚わめ鮮あらは。血溜あせりる身みを起あく。邊へんと凌さわ。僵じょうく足あしも引ひせば。あびきあく。二の大刀おと。野太郎のたろう。仇かたへ正ただ。程ほどふ頬ほ被はせ。時夏ときなつがぬ拭ぬぐとくらをど。ちふゆく面おもてをあらまれば。刃の下さ小文字じぶん揭かかへ絶絶まんとひ声こゑをあら立たて蓬よしたる。刀野太郎のたろう仇かたへ正ただ。暴道ぼうどうあらえ。とひひへスス不當事ふとうじあらぬ怨うら隱隠とく。あくも計くわ。えち。汝汝が所ところ爲あらまける。とひせを果たまご胸前むねまへを鞆つも徹とと申まけ。果たまう。あらそ散ちる。虚花うきはなの牡丹ばんざんを彩いろどる韓紅かんこう。鮮あらは血あせふ印いんと足迹あしき。朱硯しゆそくと見みえく哀あれ。既まく時夏ときなつへ屢たび四下よしをえうり。懷紙くわいしを探さゆく。刃の



染て血を拭ひ捨。腰を納め。袖うち拂ひ。遺るを拭とす。揚ぐ。復頬
被あくろ。造化高妙。とゆ。暮小庭門よりそ脱去け。かりこれだこの
处も母屋をきよと百歩ふあるやうく。加以入相の比うりれ。暮舍鎖戸
の音ふ紛れく。こよみ知るかのうりけり。少選ちく彼童女も。花医。花
鉄を携りつ。舊の处ふ穿く。何處ゆれえぬ。在らど。是首缺彼
首缺と索る程ふ。文字搾れ鮮血も。塗れて。花壇の下小臥。されば吐嗟
とぞる。駿毛叫びく。轉つ轆。母屋小近つ。頻ふ入城呼立く。云々と
告へふ。婢兒们又更ふ駿毛騒ぐと大き形。復彼小告。此又相譚ひ。
或ハ園小ゆく。文字搾が亡骸を扛りく返。或ひ入を走りく。經任小訴う。
あれゆう。經任ハ神井鬼六と賊卒夥ねく。後堂小走り牙を送恨す
か。あらまく。且癖者を穿鑿す。當下鬼六も。夥の賊卒小蕉火を照
さむく。隈き園を求獵。ども。や程歴り一とよまく。そが蹟。すも。忍恕
をく。皆ひくづかひ取ひぬ。經任と。鬼六候。すく。僉岩のむか。すも。や
やと間べ。鬼六も。懷。血小染まる字紙を。すく。引伸。透。見え。
經任が。やあまか。させ。君公。やぶ。これを。交せ。文字搾が。破られ。邊ふ。
白紙。あら。幽小文字の。見え。宣ふ。あれ。みか。すく。やせん。恨。くも
墨色薄く。且鮮血小染と。それが定ふ。乃讀。きりふ。經任のそぐ
あく。件の字紙を。とり揚。亦燈燭よ。すく。翳。と見か。すく。やうち。頭
舷。賊卒。おと退く。鬼六を。のぞ。間近く。竹。猛虎。石。を。何。うち。くる。
墨色の。いと薄だ。ふれ。を塗抹す。文義を。知る。すく。うまれ。どく。
つる。諫の状。あれ。是暴道が。状の草稿。小疑。のす。が。も。文

掲を殺せり。又の本間もく。知るを。這奴この草稿を懷紙乃間入。乞忘れ。やく。自身も著て。遠く白紙と。ひく。刀の濃血を拭。また。暴道奴は才ふ諱。我意を建んと。癡あり。こまゆく。合。また。さのふ。竊小文字掲。され。小云々と告。一。而。多。猶さる。あら。ど。うの。か。更忽。故遂。愛妾。喪。這奴憎む。腹。汝。夥の士卒をね。暴道が宿所。小乱。入。とく首撃。ふ。ふ。捕。逃。と。敦團々。卷紙。捺。歯。切り。牙を震。と。怒。鬼。六。づ。く。うち。竹。膝。拍。鳴。と。嘆。賞。君公乃賢。察。寔。小當。も。怨。憤。も。亦。宣。あり。あら。あ。ど。寄。の。軍。兵。間。迫。逼。久。く。柵。外。ふ。在。今。兵。を。動。く。躬。方。の。大。將。を。轂。歎。小。勢。ひ。添。ふ。仰。且。愚。意。と。も。う。明。日。更。小。假。托。暴。道。と。詭。引。よ。せ。幕。の。陰。小。力。士。を。伏。せ。く。文。注。所。も。誅。一。是。安。然。の。良。策。あ。ん。但。暴。道。へ。思。慮。才。幹。あ。つ。み。あ。る。そ。の。劍。法。剽。技。も。亦。衆。人。よ。捷。き。り。宣。捕。隊。の。大。將。を。擇。べ。そ。が。中。小。矢。藤。五。五。五。六。吠。又。お。ハ。皆。暴。道。と。交。戦。篤。し。今。此。二。頭。領。を。除。な。ハ。時。夏。小。勝。り。あ。る。他。暴。道。が。敵。み。小。足。う。ざ。某。又。そ。の。副。と。あ。り。て。時。夏。小。勝。り。あ。る。抑。ま。暴。道。と。睦。一。く。ざ。又。時。夏。と。見。負。也。云。渠。と。其。音。不。協。べ。え。を。下。め。來。暴。道。と。睦。一。く。ざ。又。時。夏。と。見。負。也。云。渠。と。其。音。不。協。べ。え。を。下。め。

鬼六時夏が圓山の館を攻落し。信夫莊司を數ひてとを暴道竊小隊
兵を進めく。筐姫を生拘す。をや經任へ贈しが。當時その功へ鬼六
時夏ホが上ふあす。こまかう件の兩賊將へ暴道をひそ恨り。又時夏へ
この春ちど。鬼六が副將より一ふ暴道が鎮守府ち。故城を成るふ及
ひく。その副將少せよとし。時夏へさとえ。鬼六も亦こと死。欽ひど。こまとて乃
猜忌あり。弑りく。龍蛇茂林の敗軍の比只。鬼六のと經任を諫寛て。時夏が
死を救ひ。今又渠が為ふ勸解。と捕隊の大將少薦揚けよ。是の同
氣相求め。已ふ勝を忌むこととみ。小人の奸智よ生く。がる類よく。
况賊將のるふ。あまび便是毒をり。毒を征すとらひべさん。間詰休題。
蘇塗鶴東二暴道へ敗軍の咎少す。まうち龍をねま。曩裏少頻小
状を進めく。經任を諫す。と用らぶもあくね。ひ甲斐あと名ひとる。

經任俄頃少後堂の遊樂を退けみて。今朝トヨ軍議を更と。と灰少傳。安
久原来諫言空く。既ふその非を知。せあり。と懲。と教びる。ふをみ
次の日。經任へ使者を暴道が宿所へ遣し。敗軍の罪を免許。をや。お仕
あく。軍議少加え。とつせふ。暴道へ欣然と恭伏く。疑ひを除て。禮服と
整つ。後卒の汰。侯。件の使者とうちれ立軍議乃席。赴く程少垂
と幕索断落。身甲を。暴雄少むくと見。と公脚。誣。と呼。子
少。暴道を。籠く。左右よう組んと。と暴道へと。代見く。些も騒ぐ。少
眼少瞪。無礼。少。と振釋た。再び寄を。を。極。懇。と。極。連。與
仆。手。煉。の早技。撓。少。と。見。と。公脚。誣。と。呼。子
少。足。を。折。少。生死。を。考。少。倒。少。透。を。窮。少。時。貞。少。鑑。少。
臍。甲。少。裾。短。少。打。扮。少。短。柄。少。鋒。少。肉。少。也。と。声。少。く。衝出を。考。少。へ。

と反揚ぐ。左より掛る短刀を拔間あらずせど又肉を鋒乃柄觸ぐ
動せど鋒頭を抜くる坐轂の祕術。法むを透さず。鉄矢と投へ
尖ふ時夏ハ股伏縫とく。撲地と坐る。暴道得らず。と刀を引ひて。全
進む後より走り。葛る鬼六が短鉾小膳弔れ。小膝を突立。禁え
怒り声をあり激しく。是時夏は賣れなん。修羅殿竟小膳を打く。
忠臣を殺一多ばこの柵あく有えや。と敦園間。此時夏も股立す
鋒頭拔捨刀を杖小身を起す。足を引ひ。暴道が背の下に進む
よまく。あらゆる首とうち落す。當下經任ハ屏風の後。うら達す。
鬼六を譽時夏が罪を赦す。金瘡保養の暇をとらせ。猶も怒小博
さしけん暴道が首級と躁躍て。名ひの隨ふ罵り。僅ふ憤然散きのる。死
セ一文字掲が返す來べん。あらざまび鬱シテ樂ゆ。これ下ろ。寄りの
せ

陣を襲ひ。と口少り。と如孫。一日こと懈く。不題。鐵笛矢藤五重連。
此度經任が時夏を赦す。用ひく俄頃。暴道爲。轂せす。がとく。のとく。
おふさんち。暴道と睦み。鬼六が所爲。ひやあくと。猜せし。經任久後憑
一が。を。夏の難義。以及へぬ。前か脱と去んと。尋思。後。の謀と。あくと。ふ
經任。この。來石室。ひま。秘藏せる。一卷の魔書。あけ。矢藤五。あま。戒
偷取く。脱去。便を俟ふ。恒ひ。用ひ。石室。あく。祕書の失せ。と知
のう。よ。矢藤五。一日軍議の序を。徑任。ひり。鈴川の柵。のと
當所の根城。あり。曩。小路大吠。又が隊兵成ねて。あ。小參。す。下り。後。其分
第。ある。象子。彈平太。貞持。數百騎。小将と。今。あ。彼丸。を。交。れ。彼。彈
平太。へ。年尚少く。勇力。悍餘。す。あ。も。謀慮。す。寄。の。大將。光仲。の。素。よう
武略。ひ。長。う。力。の。久。く。この。柵。を。囲。み。う。絶。く。下。う。び。攻。敵。ひ。さ。へ。後。を

襲人爲うぎる。某浅智短才もども厨川み趁ひ。彈平太、小力と歎。彼外を成らふ過失ある。この件はと眞実しげよ速きに經仕大丸ゆき。重連が遠謀。りが意と稱す。汝が厨川を成らえられての日より悦び。後日連が遠謀。りが意と稱す。汝が厨川を成らえられての日より後日連が遠謀。りが意と稱す。兵を立ち遣一難。只のみ私事のみを立す。夜よ紛糾と柵を知る。さればをりく汝を助けん。準備をせよ。と例の契を立す。おとと矢藤五へ欣然とく件の契を受納め。その夜更闌て服心遍す。おとと矢藤五へ欣然とく件の契を受納め。その夜更闌て服心の賊僕五七人を夥々潜く。後門より。半程ふ経任ハ幻術をりく。天哉墨々。風を起す。竊みこれを資し。矢藤五ホミ障を寄す。陣前をうち過ぎ。厨川と投く。走す。夜を日ふ續ぐ。以て。被外ふ來著し。象子。彈平太。貞持。小對面とも。又偽く使者と稱し。更小經任が命を傳へ。く。平泉より。數度の戦ひゆうて。矢種甲曾久。く。きぬ。これあつて。後卒ホミ。扛擔し。さうぬ容。すく。彈平太ホミ。辭し。別と往す。あつて。後卒ホミ。扛擔し。さうぬ容。すく。彈平太ホミ。辭し。別と往す。走す。走す。あらゆる。この後。二日を経て。平泉より。石室の祕書紛失の事露顕す。又矢藤五へ厨川の柵と成らぐ。三千金を略奪す。遂電せり。よ。竹内。と。経任も蹉跎。と。罵り。憤り。と。せんま。あ。この比。又誰り。よ。と。ある。文字掲を殺せり。の。時。夏。と。風聞あり。経任も。疑心生す。又彼血。と。染。る。字紙を。檢。る。小暴道が。迹。ふ。似。と。も。熟覧。と。似。と。非。ち。わ。の。只。疑。を。お。の。と。あ。ま。べ。又。文字掲。と。使。れ。る。童女

よ。と。當外。と。貯。ら。る。軍要金。二千両。を。召。く。と。某。と。眞。と。か。小演説。と。件の契。を。證。据。と。せ。り。彈平太。と。頭領。と。鉄。旨。矢藤五。と。使者。と。立。て。主命。を。傳。れ。成。り。と。一毫も。疑。ひ。と。一日。矢藤五。と留め。叮嚀。小餐。忘。と。次の日。二極の軍要金。を。遞。与。小。れ。ば。矢藤五。とあつて。後卒。ホミ。扛擔。し。さうぬ容。すく。彈平太。ホミ。辭。し。別と往す。走す。走す。あらゆる。この後。二日を。経。て。平泉。より。石室の。祕書。紛失の事。露。顕。す。又。矢藤五。へ。厨川の。柵。と。成。ら。ぐ。三千金。を。略。奪。す。遂。電せり。よ。竹内。と。経任。も。蹉跎。と。罵。り。憤。り。と。せんま。あ。この比。又誰り。よ。と。ある。文字掲。を。殺。せ。り。の。時。夏。と。風。聞。あり。経任。も。疑心。生。す。又。彼。血。と。染。る。字紙。を。檢。る。小暴道。が。迹。ふ。似。と。も。熟覧。と。似。と。非。ち。わ。の。只。疑。を。お。の。と。あ。ま。べ。又。文字掲。と。使。れ。る。童女

ら。亦を搦捕し。貴つ賺ら。問究る。か曩。か時夏が文字。掲ひ。又文字
掲が浴廬。か。旅の歌のる。まえ。初く分明。あり。と。原来。寔。まか。時夏。
か。死伎俩。衆せ。れ。く。文字掲。命を。隕。暴道も。亦。詭死せり。且。忘
ぬ。と。後悔。と。更。ふ。怒。堪。さ。と。ど。も。り。程も。あ。く。二。入。や。か。躬方の大将と
誅戮せ。躬方。叛。敵。笑。ノ。折。を。俟。く。時夏。を。八割。か。斬。切。ミ。文字
掲。と。鶴東。二。亡靈。を。祭。る。べ。と。お。ふ。た。る。ふ。慰。め。く。且。く。怒。を。心。び。け。り。
か。ア。了。程。か。時。夏。夏。ハ。コ。が。惡。評。を。傳。え。や。の。心。の。中。敬。馬。に。怕。と。肚。裏。ふ。ぞ。す。
ヨ。謀。成。就。と。舊。の。頭。領。よ。ん。よ。修。羅。殿。小。説。勸。め。く。亦。義。邦。を。殺。せ。ん。
と。名。ひ。小。乞。ど。瘡。を。負。う。く。い。ま。ご。便。を。ぬ。ぐ。間。よ。変。ち。や。露。顎。を。そ。え
ゆ。人の。え。よ。あ。づ。ぎ。ま。う。竊。小。障。或。窺。く。逃。去。ん。と。名。ひ。一。ふ。金。瘡。か。る
愈。く。と。ぎ。と。あ。不。垂。龍。そ。を。る。程。か。鬼。六。も。亦。時。夏。が。風。聞。を。傳。へ。仰。ぐ。く。公
と。名。ひ。小。乞。ど。瘡。を。負。う。く。い。ま。ご。便。を。ぬ。ぐ。間。よ。変。ち。や。露。顎。を。そ。え

竊。小。安。ふ。ど。口。を。懃。か。時。夏。が。罪。を。や。う。一。宥。よ。か。風。聞。り。よ。実。あ。が。修
羅。殿。五。吉。を。疑。ひ。き。ん。時。夏。を。や。風。と。狂。く。逐。電。あ。ど。き。と。あ。づ。ば。下。赤
紫。り。ひ。解。か。由。う。彼。奴。と。走。を。べ。く。腹。心。の。私。車。と。あ。の。づ。ふ。守。せ。り。

中輯第三十六 阵營の水蘸舟

力。を。り。く。城。と。攻。る。力。克。と。傷。多く。智。多く。敵。を。征。む。め。く。
利。あり。と。や。ど。も。害。あ。う。ど。然。が。少。や。ヨ。ス。賀。藏。人。光。仲。ハ。既。小。平。泉。の。柵。ふ。うち
寄。せ。れ。ど。も。猶。且。矢。石。を。下。て。賊。の。懈。く。俟。く。數。ひ。ん。と。く。囲。る。す。く。日。と
過。せ。ば。經。住。果。く。退。屈。く。遂。小。放。漫。の。こ。ろ。を。生。一。防。禦。を。賊。將。本。小。任
用。く。後。堂。又。淫。樂。を。と。間。謀。者。の。告。一。え。さ。ざ。が。柵。と。攻。ん。と。猶。そ。の。虛。築。と
問。究。る。程。ふ。時。ハ。暮。春。の。季。も。き。け。と。う。時。疫。あ。ら。ふ。流。行。り。て。士。卒。日。く

病臥をり。放擧る。小遣ある。とふより光仲へ且く攻敵。乃縫をとせん。
みづか。陣中をうち廻る。病を妨へ。藥を与へ。うぶ心伏用し。ども癒ゆるのと
縛り。傳染るのヨヌ。首と並び。元氣へ稀へ。現陣中へ。療治保養。小
便か。光仲是を憐く。新小附役の兵の病臥するを。六人。三人。潛伏役。よ
扶衆。そを郷里へ送り遣す。又遠く役の在る士卒も鎮守府の城へ遣ら
奉復の後。參會。ぞとを下知。け。この故ふを。あす五百騎と。やめしも。僅小七百
餘騎。小あすぬ。そが中小まつ二百餘名。ひづく病疲々。まご後め立ざる。只
幸め。摠大將光仲以下。佐味下河邊城戸水草の數輩。みふ悉あれど。
幸め。天運の跼。せま。初彼此。よ。鄉士野武者。ホ附役ひく。俄頃。小
ニ勢ふ。あす。一。ふ。日。ふ。兵糧を費。そと亦。よ。ふ。これふ。廣綱。も。そ。の意。と。ゆき
を。多く。鎮守府より。糧を續ぐ。おふ。あり。おほ。久く柱。べと。あ。負。光仲。廣綱の連

比及。ふ。不。陣門ふ。到。べ。賊徒遙ふ。これを。見べ。多く。兵糧を奪取らん。と。そ
ま。ご。シ。め。き。これ。入。水草太郎五。小謀。を。授。け。夥の兵を。生。く。敵。と。廢。り。車と
救ふ。如く。偽負て逃。え。せん。又。賊徒ハ。兵糧を。食。く。逃。れ。追。ひ。を。車と。奪。る。て。
ひれい
引入。ま。と。ど。る。ち。よ。べ。そ。の。と。と。和。殿。ハ。更。熟。て。方。上。卒。十。名。と。約。し。と。そ。御。識。を
搔。遣。乗。賊。兵。の。中。小。雜。り。く。柵。中。小。紛。と。へ。り。件。の。藁。囊。ふ。火。を。放。く。城
櫓。を。燒。き。城。門。を。開。け。こ。と。亦。そ。の。火。光。を。暗。號。と。く。度。る。と。森。風。乃。如
く。走。る。と。飛。鳥。の。如。く。士。卒。を。進。む。柵。と。抜。ん。も。と。ど。も。賊。徒。と。謀。と。知
覺。し。く。柵。を。ぬ。そ。或。ハ。較。ひ。く。少。く。と。い。の。も。彼。幻。術。と。く。月。を。掩。ひ。天。を。暗。く。
和。殿。ホ。柵。ふ。入。る。と。を。ゆ。ぎ。と。天。と。昏。死。を。そ。幸。め。て。謀。る。が。ど。く。和。殿。ホ
紛。れ。で。柵。ふ。入。つ。と。も。賊。徒。小。必。號。語。あ。づ。る。を。そ。他。の。計。を。伏。認。て。ま。が。の。人
如。く。ゆ。せ。よ。縦。柵。中。小。入。つ。と。爲。済。る。と。も。い。ま。ご。火。を。放。ふ。及。ど。く。そ。そ。賊。徒。小

知らずあが生ええらんの一人もあづきを。是九死一生の苦計。智勇全き
ものあざれべるく行ひよかべし。ゆゑく和殿を擇用ふ。武運の长短この
舉にあらず。よくあらへと説示せば。武詮感佩多く。異議み及ばず。欣然とく
退だり。三十名の勇卒をねぐ。潜て近郷ゆそ教わる。却説その曉昏より。
佐味竺内高利下河邊小三郎高吉。水草太郎五昌之ひさうえす。ぐく
頭うちだり。兵本夥本陣。又集會。く地上ふ圓坐を敷並べ。くふ篝火を
焼く。大將の下知を俟ふ。光仲ハ時を殺さむ。貴子の端小立。く幕絳
掲せ。床几を退け。儲の席。又著く程ふ。衆皆も成垂頭を低齊一これと
は。敬とまじ。光仲も亦礼を答へく。衆人ようち對ひ。諸賢時刻と違へ。そ
遺あく。會合せらゝと。教び。これ又やうめあ。かども。光仲が武運始終全
く。も。墨囊ゆかく。謀す。如く。經住怠慢の心。生じく。みづく。軍議を変じ
せ。坐ふ。声色ふ耽りく。謫言を信ひ。軍師暴道を殺せ。ふ。賊將矢藤五が
徒脱去る。ゆゑと。やひ。當ふ。是攻撃。べの時。うれしき。ゆせん
よ。陣中時疫ふ。う。死亡せ。いの甚。ヨスか。この故。ふ。賊を。のみ。圖ふ。入
と。父とも。柵を攻ふ。兵足を。躬方の運の短き。呼。欵。よ。と。小加ゆ。兵糧
既ふ。竭く。明日の糧。う。鎮守府も。亦如此。うべ。さうべ。何。如。又。食。を。求。ん
進退ふ。と。究。至。ぬ。寔。定。小。危。窮。存。亡。の。秋。を。う。ち。と。光仲ハ。微。賤。う
興。至。く。お。の大。任。を。奉。り。且。鎌倉の。宮。中。ゆ。く。對。策。の。日。兵。糧。の。る。成。向。き
し。小。某。對。く。臣。へ。兵。糧。の。續。ぎ。と。試。患。ひ。と。せ。む。只。經。住。が。首。を。獲。る。の
一。日。も。速。き。う。ん。と。伏。か。り。ふ。の。と。ヤ。セ。ア。リ。ア。リ。か。と。が。今。國。府。よ。う。兵。糧。に。達
滞。と。ま。ど。甚。く。ハ。譴。う。況。兵。糧。竭。う。と。く。何。方。ふ。向。て。軍。を。か。へ。え
餘。人。ひ。と。ま。れ。か。く。そ。あ。き。光。仲。ハ。一。騎。と。ま。と。今。宵。賊。柵。を。攻。撃。く。克。す。ハ

潔く戦歿せん是則上ハ鎌倉殿の武命を辱めまこと。次ハ廣綱朝臣の鴻恩小答えんとらふのと各位へこまと異えん妻あり予ありの孰々企て。お戸毎ニ俟ざりんや鎌倉殿への忠節も此度の役が限らずあらず。かく云ふとありふゆの身の暇を取りも。性命を全うしく後の大役も立つま人光仲もうち捨れどとも一毫も恨う。とくとくとひがせば高利高吉昌之ふござれ。わき声を激し。あへ情うきよをそ羨む。家滅忘れ。妻子よ別れ方と。殺し名を留め子孫の榮を以ふる。武士の常情。吾們麾下み従ひ。く。賊を駆逐してゆ。愛顧と蒙ると浅きも生るとも。死まると安危をヨヌ賀殿と。復又せまく欲せ。ふ逃げてむごん軍談へ難よ臨て免る。城兵の本意とく。今更。誰も亦達死。存も。糧竭。餓。小臨みて。果敢く。た。勵死ぬ。誘ひ共侶。今宵賊柵小推す。鐵壁ありと。打破す。

經仕首級を獲ざ。柵を首ゆ。死せんのと他裏あく。と辞起。と答。下を信と見。衆皆門と嘆唱。通微妙くいは。吾們願ふ所。二君の存念と同。去ら。かと。諸声合。或ハ矢を折。天と。誓を示。必死の覚期。光仲。感佩。その義烈を頌賛。諸賢宰。かの如く。攻撃と難。攻撃と難。血氣ふ。任と。不覺ふ。進。謀の軍をも。可。惜命を隕。死ふ。かと。血氣ふ。任と。不覺ふ。進。四郎ハ隊兵三十名。既に近郷。小姓。よう。その謀へ。如此。箇様。箇様と説示。かと。水草太郎五。百五十騎を一隊と。柵。よう。である。四郎ハ隊兵三十名。既に近郷。小姓。よう。その謀へ。如此。箇様。賊と戦ひ。偽員。退くべ。又病。後。本復せ。一百餘人。陣中。守。ア。徒土罐を鳴。一。鯨波を揚。續。攻掛る。如く。光仲。佐味氏。下河邊。小三郎。共。三百五十騎を。一。の城門を攻撃。武詮。

計行ひて火の炎度が爲尼へ食速よ騎へべ。時刻も今宵四更の比と定め
る。三更の比又至ゞバ士卒飽やかに食まべ。内謀合期せをれかゆく
箸を取ることも既よ今宵限アホソあシあれ将とあり士卒とありと。
生死存亡を惧ゆると過世怪え交玉あらざり。ゆく竈期の酒を酌ん
とく土器せりとどやと呼まく唯々と應々。幕の内より両三人籠残擧て
坐す。小四方小酒杯を載らし。ゆく寄るあり。當下光仲へおのれまづ
毒試をせんとく酒杯残ふ取て。一口喫く衆人ふうち對へ陣中糧まづ
竭ゆふ。ゆく酒あらん水をりて代うの。まつま佐味氏へ憚せんと
ひりげく盡を盃を。内受てうち戴き又高吉より昌之と次第又
巡る盃の影も隈あき。夕月夜山杜鵑むちかす。西の天へぞ鳴る。彼や
冥土の友歟とも。ひるみの躊躇やど死天の山路へりうともふ哉る
力の底とあらく。死を究めう。兵の支と殊ふ憑く。僉慄然とうち仰け
竺内高利進み。出現かぢうとの酒宴。ふ殺あひて送憾。各位雲宴時等
久へ高利殺進せん。何をぐる。と小頭を傾け。扇を膝みとう。この酒へ素
よやと泉の水あひて。酌とも竭ド脚方の武運。名ふ。あらる平泉を一呑ス
嘆そめぞ。と声張揚く謔ひゆきび。高吉ハ扇を披ゑ。醫弱の袖と翻
舞々奥を添ふ。衆皆哈也とうち囁。光仲も亦笑片向く。佐味が秀
句を譽うける。説話分両頭。さすも亦憂よ。洩ぬ事あらず。ゆく轡を
の笠。うへ笠姫のうきび。今歲仲春圓山ゆく。団を脱れぬ。と見旅乃
杖と毛棄物。憑く。名ひ。弱竹と鳴江へ。途よ轡。ゆく。見。賊
徒み生拘。經任が目前へ牽居られ。その日よ。殊き渠が恋風。小聲始
まつ。命強頗く譴責らまく。いくそむく。その辱めを。信夫の翁が締



而良人共侶ふともかくも。あそばせどんへ憂ひの數一積アミ山雞の峯上にて
音ふぞ啼く。良人ハ獄舎ふ。且日亦龍小養より訪り。毛坊もよきを
奈述波江ふ。あらそと以ふる。澪標心つゝぞ果と見れ。ゑえあれども文字掲が
妬しき姫を拒う。經任グヨヌ慾うも。幸ひかく甚く強ひ。然うと
許しもせど。この仲春の某の日うり。經任東ふ名ふや。かち心太丸女の子ども。く
懲しく熱腸を冷ん。さうがこの柵の西南ある。転港の邊み成の兵を置ざれだ。
整廣して底深く。岸險しく。岸立に。内少松柏杪と争ひ外み縁波岸と
洗う。潛ひくへうんと欲むるのも異き。へつと難く。潜ひくへんと欲む
ゆ。船うきび生うとぬあうと。匡姫を懲さん。あらそ究竟の配所をす。
さきとく俄頃。斬港の内。一宇の艸屋を造らせ。姫をてふ安置。毎
日ふ舊衣十領を浣べ。とぞ命じける。これより。賊卒四五名大をもる鹽
一箇と洗衣を乾くと。竿幾條缺ひて來つ。匡姫ふ遍与てい。和女郎が
白く燭ゆ。その足の力ひくりて。水際下り立て。毎日小夥の舊
衣を浣ひぬ。血盆地獄の呵責を受る。辛ひ務をあらまん。速く
修羅殿の脚意。徑ひ紫雲の夜衣ふ。包も。紅蓮の蒲團ふ。乗せ
ら。安樂園へ往生せよ。人の心を似う。眼又く美人うま
人ふを美人あきび。修羅殿のかくや。執念深懲し。まきみ。吾共も
亦過世。歟と呼。徳あり。和女郎が心。後つど。崇るやう。たゞ
ひのく。時の厄。良人。而ま。身代賣のを。あは。世も。小。や
義邦の為。あ。修羅殿。靡た。あらう。の。徒。嚴。ふ。え。
翌うかの。ふ。ものも。え。え。の。あ。ぞ。う。寝笑止や。と。故。軒。二
の城門のかく退りけ。これ。う。後。朝夕の糧を送り。ると。倘。憐。う。

譴んとく。賊卒かおが日小二遍捧衝鳴かび。ぢうつき來つるのを。召めりひもあらざる色
夜よへ通宵さう壠落とう。彼塹港の水音よう。外とふ言訪ことひひのをを。憐あひべ
筐かわ姫ひめも熟じゆぬ業わざ。小考食こうしょく。衣きぬうちご賊兵かへとも。沾ぢえ血ちも被あ
せ。衣きぬうちご解とけ。鹽しお小載さい。水際みで推すりて遣おとすを苦くる
たふ下さ立たんとく踏ふから。磴山崩のと苔ひのき深ふか。岸滑なめらか水高たか。落おち軀こ
倫りんむ身みを投なげめ。絶ぜつ死しそう。小浅懶あさけ。うごく細脛ほそくびを濡ぬぐせ。寒さむ春はる乃
水みず。水みず揚ある片足かたあし。これ似いそうか。白鷺しらとりの友とも。負おのも形かたちうく。笠かさ
笠かさ。細布ほそふの衣きぬ浸ぬぐ。揮灌きわん。堪たま。入いる。岸きしの薄冰うすひ搖碎よき。
さら浪なみ水みずの文もん。足あし小膽こわいだん。絕ぜつ眞まこと。眩まど。人氣ひとけ。大江山おおやま。その
鬼き。捉つか。風流ふうりゅう少女おとめ。解とけ。淫ねぎらひ。かくあきけん。と身みどろ。小こなこあり。と
と泣なみだ。涙なみだの川かわ。ももあら。湯ゆうちご。裳裙はきふき。袖そで。濡ぬぐ。衰あせれ。

あまよりのく日ぬひぬ衣きぬの怨家おんなの垢あハ洗あへふき。と。身みの恥もじと良人よしの恥もじ。雪ゆき
よもやよ。考かふ。も。荒足あらあし。と。被あ列はり。と。磨こぬ。玉たま。顔おほも塵埃じんまい染しみた。你
雪ゆきの膚はだ。解とけ。乱ま。黒髮くろがの。ああ。難苦なんくも。ここが良人よしの爲ため。と。ああ。忍しのと。
そそ。竟き。疲勞ひろう果ごく。十と定さだめ。衣きぬの數すう足あし。後あと。忽こゝ地じ。經き任あた。便びん
室むろの小庭こてい。小牽こひき。と。されて。憂う。と。驪り。音おと。小。不樂ふらく。積づく。春はる。見みせ。人の憂う。と。身みの樂う。と。笑わら。ひ。戯戯。と。怨うら。の數すう。復おす。力ちから。と。繻うね。
徳とく。と。勝かつ。ぬ。良人よしの命みこと。と。惜うれ。と。勸解くげん。と。翌あさ。と。又また。水温すいおん。と。春はる。の日ひも。花はな。と。さろ。と。日ひ数すう経へ。と。夏なつも。本もとに。け。と。香久山こうくさんの。山さん。と。や。ぬ
水際みの松まつ。衣きぬ乾かわ。と。も。と。不樂ふらく。積づく。春はる。小病こび。著き。の。重おも。と。枕まくら。も。許ゆ。
さ。と。ば。の。怪あ。と。王おうの。緒はじ。の。絶ぜつ。と。つ。と。生なま。と。憎にく。と。絶ぜつ。歎かな。の。あ。と。も
あ。と。ぐ。時とき。と。負お。と。卯う。茨いばら。開あく。四月。十三日。小。も。あ。ふ。と。痛いた。と。あ。き。と。ふ

やく。翠帳の下小養ま深窓の裏小人と成り。良家名族の息女されども。今へ賊徒柵中の浣婦とあり。果て判舍ふをとを置とて。夜を殊更小物寂く。夜行の擊柝を遠く。彼此又夢るのを。又松風蘿月の外耳よ觸と目ふ遠るのを。寝らきぬやく。終夜佛の御名を唱ふ。過去ゆく實父母。養父母。親族家臣ホ。まづ。戰死せり。の菩提を吊ひ。現世少く。良人の天運循環。會誓の恥を雪免。絶え家と興し。廃きる受領を續せ。多とぞ禱りけ。夜うく燈火と置く。とて。許さねば。むすみ暗室小坐。暎るを俟つ。冬の日ふあつて。枕の邊よ雪を束ね。明を取るもあらず。夏はやめふれど。空き當の影を。人よ窓ふ。光を引ふ由。さびと今宵も。満天よ雲と。仰上。是れ真如の月。高く昇る。清光白屋の檐を照し。見えとば。身

ひとよ壁ふ添ふ。與よ共小蜘蛛ふ。よ側り。水路近う。弱葭の風ふ戦ぐ。鶴鳩の囂鳴。うげ。何の故ふ。夜え寝らきぬ。青山遙ふ。松声の枕よ響く。鶴杜鵑の光惚げ。誰が為小屢價を召ふ。耳か竹くの悲を増ざると。目ふ見う。腸を断ざる。怨う。者を責て。過去來とろひ。よ。誓言歎経。任ぐ。残忍め。且性急う。冠者を亡ひ。をまう。吾脩を隨せん。とくの。鴻許の所。約う。べれだ。屠所の羊と。よ。命を。か。ま。不。幸。の。中。乃。ふ。う。ぐ。い。呉脩亦彼が微を容ざふ。熟き。靡く。を俟んと。ま。文字。擇と。や。ん。存命。よ。亦。是。不。思。議。の。幸。あ。ん。欲。あ。ハ。あ。き。ど。も。頃。日。糧。と。遺。り。來。つ。賊。卒。ホ。不。向。語。を。せ。く。ふ。徑。任。が。愛。妾。文。字。擇。と。既。と。正。死。

しきけども經任ヨリミと吾脩ヨリミよ遍サヨり。彼愛妻アガミを換シメルんとす。そのう遠アキる。とひのうわハシマる。さうが吾脩ヨリミが死マミん日ヒも又遠アキくトと覺マシム。經任遂ヨリミ本意ケレタを遂マシム。怒マヌカり冠者カウジヤを殺スルやせん。が身フひとろを潔シタマツらし。死マミんとまど共侶カクダふ良人ヨシヒトを亡マミふの憾ハラハラあり。とてもかくても死マミぬ才タレのみ。心ハコを爰ハシマふ苦マヌカいめりまく人ヒトみアシマぬ經任ヨリミが心ハコの鬼カニの迎マツタケルを俟マツタケル。よしや水脣ミズヌリとあゆまでも。あの塹港カニマツより脱マツルれちく。遂マシムふ寄マツルみの陣アリ。麿マツルこの柵シマツ中の虚マツル實マツルを告マツルく。守マツルうれこのほともう。御方ミカミの兵アリを導マツルす。そのう塹カニマツの埋草マツルともあるが怨敵マヌカシ亡マミぶべく。冠者カウジヤを救スルて。もあらん過世福きマツルきマツル生マツルれ來マツルく。女の子メニの體カラを稟マツルす。日ヒも正マツルく。源氏ヨリミの將帥マツル九郎判官カウジヤの女メふトそあシマツル。父ハ矢嶋ヤシマの戦マツルひ小船マツル八艘ハチボウが端マツルより端マツルへ危遷マツルす。女子メニも水ミへ入り。あまと荒磯マツルの巣マツルあらねマツルば波マツル乃底マツルゆく樹ツバキをあらねマツル。稀マツルど一念マツル癡マツル火マツル入マツル。水ミをも涉マツル。やへ已マツルん。父判官カウジヤの信マツル。山城鞍馬ヤマシマの毘沙門天ビサムエンテン近くマツル膽澤大明神ヨウザケタケルタケル月来マツル。圓通寺エンツドウジの觀音菩薩ボダシ塙マツル今宵マツル匡マツルふ力をマツル。勤マツル。彼塹カニマツ輒マツル渡マツルさせぬ。と霎マツル時イハ禱マツル。外マツルをうち仰マツル。月ミの影マツルを推マツル。夜マツルも尚マツル二更マツルの比マツル。賊徒マツル要害マツルを憑マツルて。夜行マツルるのもどうか稀マツル。只マツル起日マツルぞ吉日マツル。空マツル今宵マツルと過マツルさんや。と志残マツル。勵マツル。彼塹カニマツ輒マツル廣マツル塹カニマツ。外面マツル小立マツル。水際マツル赴マツル。とく。又マツル。又マツル。廣マツル塹カニマツ。死マツル水戲マツルとせんをあらぬ身マツルの不覺マツル小進マツル。諺マツル小鷄マツルの真似マツル。とりふ鳥マツル。要マツルてそあらめ。と見マツル。西マツル二歩マツル立マツル。庚マツル。舍マツル門マツル傍マツル倚マツル。洗濯マツル鹽マツルを引起マツル。と。且マツルぞ今宵マツルの渡舟マツル。論マツル。ま。沈マツルめ。亡マツル魂マツルの夢マツルふ。又マツルせても寄マツルふ。告マツル。終マツル。讐マツルを亡マツル。ま。と。左右マツルの

かけく。辛く水際へ引ひきかう。衣乾も半のみどうあゆ代。擇取より試み。
乗りて揺動く右ひざ。鹽の中小置ケ絲。身を捨てて遂に瀕もれ。
南無弘誓圓通觀世音濟せ。南無阿弥陀佛。弥陀佛。と
念じ。岸を突く推せば鹽を搖くと漂ひ流をく。引を如く溝門内
脚を潛す。かぶり。歡や。比見てせが裏面よりこへひり増す。水底
深う。竿立。直徑廣う。寄べくもあらず。夜風颶。とく。
青瀾藍。蒼く。明月暉。とて。清影玉。白。遙小前の岸と見
る。疊上。浪除の石を水より生ふ。十尋ふも餘るべく。ひと險う
ち。屏風を建。如。縱彼丸小寄せる。とも。ひく。攀登。とて
得。されば。今更小変已。よあらざる。竿を擡す。水を
搔んと。底。鹽傾。眼眩をく。毛の。迎。を遠る。小似。かく。毛をふ
心盡。と。脛。脱をやれど。前面。でも。乃。と。漂ふ隨。天の
明。更。み。賊徒。と。捉え。過。世。り。ゆ。業報。ゆ。良人の。う。を。も。口
人を。神佛を。護。あり。進んと。と。小舟。ゆ。と。登。と。と。物。戒
路。も。現。この。岸。へ。煩惱。う。彼岸。へ。菩提。う。中流。う。物。戒
々。餓鬼の。苦難。も。か。ぞ。あ。死。只。ち。み。く。沈。し。欲。う。の。岸。の。あ
び。死。そ。も。死。せ。ん。と。と。ア。と。死。と。聲。立。と。嘆。う。泣。ま。
かる折。前。面。ふ。人。あ。編笠。を。深。く。あ。と。年。い。く。を。た。死
知。ら。身。長。ハ。五。尺。八。九。寸。六。尺。ゆ。も。や。と。ス。え。う。小。皂。を。蛇。皮。榜。の。衣。を
被。と。長。足。と。短。け。あ。兩。口。の。刀。を。腰。す。と。七。岸。の。葛。石。み。右。の
足。を。踏。衆。と。あ。あ。ふ。向。く。立。と。立。け。姫。と。遙。と。と。死。と。殺。と
も。賊。徒。小。知。り。と。彼。奴。も。入。あ。欲。脱。さ。と。と。の。伏。兵。を。う。ん。捉。へ

ら見く又おも辱めおんめ小ありこ。とく倫ルンと目を閉て念佛十遍じゅんなり
ま。唱うたる。身をよせ。鹽を覆おおさんとく縁えんより紙かけかる。又名なみえをす。
渠おちり追隊の賊兵あぶ。太刀たけ數あまたきそひ死しみ一人立たつ在ゐいと不審ふしん。繁
縦あひ。間まを遠とほきども。隈くびを月影つきかげふとくとくる。賊徒の姿すがた似おざる
ウのあう。あら神佛の擁護よきごすうして。これを賀たのむ者ものうる歎うなづく。あらぬ
歎うなづく。小死こしを急いそが愚ぐうみうん。とや吾脩ごしゅうの仇かうをうそと毛けを下さ
遲おそれとやうある。只天運あめうん。運うんせんと多おおべ怖おぢぞ驚おどく。波なみにまふく
流ながさをとまぐ吹ふきう風かぜや助すけけえん。お腹はらを渡わたの半はんを過く。前面まへへ近くちか
えれども。あ不あふ岸しやきでばようようがまけり。當下とうか彼武士かれへ筐姫かわしこをも認ゆめり。
豫よく用意よみや考かくきけん腰こし小挾まつまつ一索いつそくをととく。水上みずへ投なげかくかく索そくの
端すゑ小鐘こくあり。鈎つるをえ著つけ。宣あらわぐ竈達かまどを筐姫かわしこの鹽しおの縁えんよううち掛かけく。

ちびく小岸きへ引ひくせとり。かくとその鈎つるを外はず。此度このたびへ姫ひめの帶おびふきうせ。
鞍馬くらまの山さんふありとんとん。番ばん卸おろきうすうんうすうんかうかういと。輕あららく引揚ひきあげ。早技はやわざ
力量りきりょう世間よのま小類おもええくべくもあうねば。筐姫かわしこも夢ゆめの中なか又夢ゆめを見る
心地こゝ。吉凶よきゆうを判はんくもうく。只忙然ただまんぜんとつぶゆる。容止うやうしをつくと。
笠かさの内うちより透とおる。かん身みも是吉見よみ冠者くわんしゃ義邦ぎぱうの内室うちむろをすくや。
これ方かた脇わき廻まわら爲ありて。賊徒あぶの妻妾さいせきあううる。知しう。筐姫かわしこ小こあうす
やと向むかく。僅すこふ頭かぶを擡あげ。裏うらく胸むね小こうすく。この入いり吾脩ごしゅうを助けのせり。
善よ我惡わが欲ういまい。あうねど隠かくすへあうく。小こあうと形かたちと深念ふんねんし。
現推量げんざいりょう小こ違たがふとある。吾脩ごしゅう則しかば籠かごす。かん身みハス何なん國くにの人ひとそ。かん
あうねどう人ひと。かん身み知しく。助けのせり。圖ずきうける幸さい。名告なまわし全
向むかく。応おこせぐ。点頭てんとうの。懷いだう一管いつかんの呼声こゑの笛笛を探さり出だす。

澄江の弓を吹鳴せし。斬を距ると遙かに叢立する樹蔭より一個の行客走り来り。筐姫敬馬たゞ遠く見え。その人の手に巻せのうへ。三四十九歳。色浅黒く。鬚青かく。花田の榜の夾衣を。精悍しく。裳折。寒袴。腰より一口の短刀を跨。足より涅染の脚絆を穿す。その人骨へ田舎備え。こゝ彼かのぶく甲乙ある。件の武士へ立候ぐ。彼行客と接をよせ。霎時耳語れ。あらばぬ。筐姫ふうち對ひ。婦人かのうど驚くべく。今へこの名と告うどとも。遠くぞとぞ。知るべからん。今宵へ特小月明く。済ぶふ便り。こころうか。あくみく。問答究めく。危い。かく影を隠さんぞ。この男を俱一とく。とのそがせ。行客へその答とままで。姫の心取。背引け。足信しく。走まけり。件の武士。木々をすく。やうく。宴時。そよごを目送る。再び岸邊ふ立よ。水よ漂ふ大鹽よ。鉤索投げ。引よ。葛石ふ繋が。腰より扇を抜か。斬の經の長短。向の岸の高低を。參り。のち。中ふ端立ち。横さきふ運歩く。程ふ晴る天も定めち。叢雲忽地月を包く。朦朧と。よけ。浩然よ袖附さ。鎧のうへ蓑ふ掩し。笠よ隠し。紫金作の太刀を佩。細縫の南蠻肱甲ふ筋金へ。膚甲せ。亦是一個の潛行武者。彼もこの斬ふそみて。遙か右のうへ。來り。件の武士へ。知らざり。行達の間よ。ひそむ。忽地破と撞當。互に退く。兩三歩。ひそむ。驛籠を。宿と。ひそむ。序口ろ。と。咲たる。左のうへ立候。又前面より。一個の武者。打証似。うる管蓑の腰よ。漏る。鎧の威。毛輪鐵打。鉢巻を。竹子笠。下隱。ても。あく。顕る。焼刀の金具。さす。耀。岸の螢。秋雲。星の影。教と疑ひ。件の武士。こゝふも懼。と。序口ろ。と。咲たる。右へ入せば。

脱の賊
竹柵姫
夜戦



あるの武者左へ入せば。お形との武者。巨臂手を起し。詰め。身を固め。疾視。あて。諸笠小隔。くさんせぬ面影。を。見んと。かく。敵の腕を一度。又振ふと。直。つ。け。くる。卷。法の極秘。彼方も撓ぬ。相撲の推。も。小突。拂ひ。打。沈む。軌間。と。一上一下。二人と敵。も。力士の傳た。拳乱。も。挑。も。三人齊一。諸笠立。小諸。も。引落せ。蓑。も。脚離れ。え拂。雲。又。齊。く。洩る月の影。小面。を。又。う。され。義秀。ね。ふ。を。う。と。と。向。の。武者。能。成。ゆ。と。見え。然。り。ふ。和。敵。き。二。廣。光。何。こ。の。武士。が。朝。夷。ぬ。欲。あ。ま。く。と。む。や。初。對。面。あ。嗣。忠。も。豫。く。似。く。名。も。一。舊。識。ふ。く。ぎ。不。思。議。の。值。偶。と。再。會。ふ。感。嘆。呼吸。を。合。せ。り。

朝夷巡嶋記全傳第四編卷之三 終

